

アルファルファの優良2品種

— 北海道 —

◎北海道各地にアルファルファのバーティシリウム萎ちょう病が発生。

バーティシリウム萎ちょう病は昭和55年、江別市ほかで発見され、その後、道央・天北地方など各地で発生しています。

アルファルファ畑が部分的に立枯症状となり、近づいて見ると葉が黄化し萎縮しており、黄化した葉はついには脱色して枯れ上がり、死んでしまいます。

根の外側には病徴は出ませんが、主根を縦に割ってみると、木質円筒部が黄色からブラウンに変色しています。

病原菌は土壌菌であり、防除薬剤はありません。現在、北海道奨励または準奨励品種はいずれもこの病原菌に弱く感染しやすく、そのため播種3年めには多くの枯死株(欠株)を生じます。しかしバーティシリウム萎ちょう病の抵抗性品種として育成された「バータス」等は汚染地域においても病害発生は極めて軽微であり、画期的な効果をあげられます。

2 バータス……………バーティシリウム萎ちょう病の抵抗性品種。 OECD登録品種。

収量性——ソア並みの多収品種。

耐病性——バーティシリウム萎ちょう病に最も強い抵抗性を示す。
そばかす病等の葉部病害にも強い。

耐倒伏性——ソアよりも倒伏に強い。

葉色——ソアよりも濃緑色で、緑度維持力が強い。

永続性——茎数が多く、冬枯れが少なく永続性は良好。



バーティシリウム萎ちょう病の発生分布

アルファルファ品種の生草収量 (江別市)

北農試

品種	年次 番草	1年目(昭57)		2年目(昭58)				比率
		I	比率	I	II	III	計	
バータス		366	92	2,978	3,222	1,289	7,489	98
リュテス		369	93	2,489	2,956	822	6,267	82
ソア		397	100	3,133	3,489	1,022	7,644	100
ヨーロッパ		391	98	2,244	2,822	956	6,022	79

注) 生草収量は10a 当りkg。

バーティシリウム菌に対するアルファルファ品種の反応

北農試

品種	抵抗性個体率
バータス	96.3%
リュテス	86.8
サイテーション	66.5
サラナック	40.3
ソア	44.7
ヨーロッパ	42.1